



2026年3月期 第三四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月9日

東

上場会社名 アキレス株式会社
 コード番号 5142
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理本部長
 兼財務部長
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所
 URL <https://www.achilles.jp>
 (氏名) 日景 一郎
 (氏名) 德田 等 (TEL) 03-5338-8167

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第三四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第三四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第三四半期	60,454	3.4	2,419	—	3,161	493.6	1,664	△36.8

(注) 包括利益 2026年3月期第三四半期 994百万円(△58.3%) 2025年3月期第三四半期 2,384百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第三四半期	円 錢 121.80	円 錢 —
2025年3月期第三四半期	187.56	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
2026年3月期第三四半期	百万円		百万円		%		円 錢	
2025年3月期	80,393		40,056		49.8		2,931.09	

(参考) 自己資本 2026年3月期第三四半期 40,056百万円 2025年3月期 39,336百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 錢 —	円 錢 0.00	円 錢 —	円 錢 20.00	円 錢 20.00
2026年3月期	—	0.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益	
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 錢	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	14,562,714株	2025年3月期	14,562,714株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	896,505株	2025年3月期	895,600株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	13,666,813株	2025年3月期3Q	14,033,477株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国では個人消費が底堅く、半導体関連を中心とした設備投資需要にも支えられ、堅調に推移しました。欧州も賃金の上昇や物価の安定を背景に緩やかに回復しましたが、中国は個人消費の伸び悩みと不動産市場の調整局面が継続したことから、回復が遅れました。

日本経済は、個人消費やインバウンド需要の回復の動きが見られたものの、原材料価格・エネルギーコストの高止まりに加え、為替相場の変動や、米国の通商政策の影響など、先行き不透明な状況が継続しました。

このような事業環境のもと、当社グループは、世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする『グローバル ソリューション プロバイダー』を長期的な目標に掲げ、それを見据えた3ヵ年の方向性を示す『中期経営計画—FY25～FY27—』を策定しました。社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、ユニークなアイデア、ひらめきを大切にし、様々なテクノロジーを組み合わせたソリューションで社会に貢献することを目指し、3つの全社戦略（① 選択と集中の徹底、② 新たな価値の創造、③ グローバル戦略の推進）を柱に、人材力や生産性・技術力等の事業基盤の高度化に取り組むとともにサステナビリティ経営を推進し、収益力の再構築・強化に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、シューズの物価上昇による消費環境の悪化及び価格改定の影響による販売減や車輌資材の中国及び米国市場での日系自動車メーカーの減産の影響による販売減がありましたが、フィルムのライフサイエンス分野とエレクトロニクス分野向け、工業資材の半導体ウエハー搬送用及び製造工程用の部材が好調に推移し、60,454百万円（前年同四半期比3.4%増）となりました。

営業利益は、製造現場における一層の原価低減活動や全社的な経費抑制の継続的な取り組み、価格改定の推進等に努めしたことにより、2,419百万円（前年同四半期は55百万円の営業利益）となりました。

経常利益は、為替差益447百万円や受取配当金144百万円の計上等により、3,161百万円（前年同四半期比493.6%増）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、当社防災事業における固定資産の減損損失を計上したことにより、1,664百万円（前年同四半期比36.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、『中期経営計画—FY25～FY27—』に掲げた3つの全社戦略の実現に向け、組織再編を行っております。これに伴い、報告セグメント区分を従来の「シューズ事業」、「プラスチック事業」、「産業資材事業」から「第一事業部」、「第二事業部」、「シューズBU（ビジネス・ユニット）」に変更しております。

なお、各セグメントの前年同期比につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた上で算出しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおりであります。

各セグメントの名称、主な重点分野、事業内容及び製品は以下のとおりです。

セグメントの名称	主な重点分野	主な事業内容	主な製品
第一事業部	エレクトロニクス分野 モビリティ分野 メディカル&ヘルスケア分野	車輌資材事業 化成品事業 ウレタン事業 工業資材事業	車輌内装用資材、 一般レザー・カーボン・ラミネート フィルム ウレタン 工業資材、衝撃吸収材等
第二事業部	コンストラクション&インフラ分野 セーフティ・アクティビティ分野	断熱資材事業 建装事業 防災事業	断熱資材 建装資材 防災対策商品等
シューズBU		シューズ事業	シューズ

＜第一事業部＞

車輌資材は、航空機向けが堅調に推移しましたが、自動車向けが中国及び北米市場での日系自動車メーカーの減産の影響を受け、前年売上を下回りました。

フィルムは、ライフサイエンス分野向けが回復するとともに、エレクトロニクス分野向けが伸長したことにより、前年売上を大きく上回りました。

ウレタンは、雑貨用が堅調に推移しましたが、車輌用及び寝具用が苦戦し、前年売上を下回りました。

工業資材は、半導体ウエハ搬送用及び製造工程用の部材が伸長するとともに、医療機器向けRM成形品も堅調に推移したことにより、前年売上を上回りました。

第一事業部の当第3四半期連結累計期間の売上高は36,775百万円と前年同四半期に比べ2,844百万円の增收（前年同四半期比8.4%増）となりました。

セグメント利益は、フィルム、工業資材の增收による粗利増や製造現場における一層の原価低減活動等により、前年同四半期に比べ1,631百万円増加の2,598百万円（前年同四半期比168.6%増）となりました。

＜第二事業部＞

断熱資材は、ボード製品がシート防水用途などの非住宅分野等で堅調に推移するとともに、販売価格の改定等により、前年売上を上回りました。

建装資材は、住宅市場の低迷の影響が続き伸び悩みましたが、販売価格の改定等により、前年売上を上回りました。

防災対策商品は、米国市場は好調に推移しましたが、国内市場が伸び悩み、前年売上を下回りました。なお、当社防災事業の固定資産について、当初の事業計画で想定していた収益の達成に遅れが生じており、計画の達成に時間を要すると判断したことから、減損損失を特別損失に計上しております。

第二事業部の当第3四半期連結累計期間の売上高は16,998百万円と前年同四半期に比べ5百万円の減収（前年同四半期比0.0%減）となりました。

セグメント利益は、断熱資材、建装資材の增收による粗利増等により、前年同四半期に比べ299百万円増加の1,697百万円（前年同四半期比21.4%増）となりました。

<シューズB U>

ランニングシューズブランド「B R O O K S」及びコンフォートシューズブランド「アキレス・ソルボ」は、健康志向の高まりに対応した高機能製品を投入しました。また、主力ブランド「瞬足」は、機能性を追求した新製品の投入並びにコスト環境の変化に対応した価格改定を実施しましたが、全体としては、物価上昇による消費環境の悪化及び価格改定の影響により、前年売上を下回りました。

シューズB Uの当第3四半期連結累計期間の売上高は6,680百万円と前年同四半期に比べ836百万円の減収（前年同四半期比11.1%減）となりました。

セグメント損失は、コスト環境の変化に対応した価格改定や一層のコストダウン活動に努めたことにより、前年同四半期に比べ423百万円改善の158百万円（前年同四半期は582百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は80,393百万円で前連結会計年度末に比べ888百万円増加しました。

資産の部では、流動資産は47,411百万円となり前連結会計年度末に比べ1,691百万円増加しました。これは主に、その他流動資産が118百万円減少しましたが、売上債権が1,634百万円、棚卸資産が517百万円増加したことによります。固定資産は32,981百万円となり前連結会計年度末に比べ803百万円減少しました。これは主に、投資有価証券が858百万円増加しましたが、有形固定資産が1,483百万円、退職給付に係る資産が145百万円減少したことによります。

負債の部では、流動負債は29,046百万円となり前連結会計年度末に比べ115百万円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が472百万円増加しましたが、未払金が325百万円、その他流動負債が319百万円減少したことによります。固定負債は11,289百万円となり前連結会計年度末に比べ283百万円増加しました。これは主に、繰延税金負債が231百万円、退職給付に係る負債が72百万円増加したことによります。

純資産の部は40,056百万円となり、前連結会計年度末に比べ720百万円増加しました。これは主に、為替換算調整勘定が1,043百万円減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が1,391百万円、その他有価証券評価差額金が675百万円増加したことによります。以上の結果、自己資本比率は49.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年11月12日に公表いたしました業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（2026年2月9日）公表の「通期業績予想の上方修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,721	7,450
受取手形	1,452	959
電子記録債権	6,658	8,625
売掛金	13,586	13,746
商品及び製品	8,874	9,756
仕掛品	1,689	1,616
原材料及び貯蔵品	4,040	3,749
その他	1,720	1,601
貸倒引当金	△24	△94
流動資産合計	45,720	47,411
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,042	8,049
機械装置及び運搬具（純額）	3,551	3,163
土地	4,107	4,103
建設仮勘定	2,197	2,138
その他（純額）	1,345	1,306
有形固定資産合計	20,244	18,761
無形固定資産		
	274	275
投資その他の資産		
投資有価証券	6,162	7,020
退職給付に係る資産	6,370	6,225
繰延税金資産	135	112
その他	666	637
貸倒引当金	△69	△52
投資その他の資産合計	13,266	13,944
固定資産合計	33,784	32,981
資産合計	79,504	80,393

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,279	10,752
電子記録債務	2,538	2,815
短期借入金	4,400	4,400
1年内返済予定の長期借入金	5,750	5,750
未払金	2,013	1,688
未払法人税等	441	221
その他	3,738	3,419
流動負債合計	29,161	29,046
固定負債		
長期借入金	4,500	4,500
繰延税金負債	2,429	2,660
退職給付に係る負債	3,655	3,727
資産除去債務	370	371
P C B 廃棄物処理引当金	22	21
その他	29	8
固定負債合計	11,006	11,289
負債合計	40,168	40,336
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,640	14,640
資本剰余金	3,660	3,660
利益剰余金	13,647	15,038
自己株式	△1,329	△1,330
株主資本合計	30,618	32,009
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	451	1,126
繰延ヘッジ損益	△15	2
為替換算調整勘定	4,566	3,523
退職給付に係る調整累計額	3,715	3,395
その他の包括利益累計額合計	8,717	8,047
純資産合計	39,336	40,056
負債純資産合計	79,504	80,393

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

	(単位:百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	58,452	60,454
売上原価	47,440	47,266
売上総利益	11,012	13,188
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	4,336	4,129
広告宣伝費及び販売促進費	487	462
貸倒引当金繰入額	△2	70
給料手当及び福利費	4,067	4,145
退職給付費用	△84	△16
旅費交通費及び通信費	341	330
減価償却費	230	121
その他	1,580	1,525
販売費及び一般管理費合計	10,956	10,768
営業利益	55	2,419
営業外収益		
受取利息	30	14
受取配当金	46	144
持分法による投資利益	143	120
為替差益	231	447
不動産賃貸料	35	32
その他	164	110
営業外収益合計	653	870
営業外費用		
支払利息	86	93
支払補償費	28	6
その他	61	27
営業外費用合計	176	127
経常利益	532	3,161
特別利益		
固定資産売却益	2,307	8
特別利益合計	2,307	8
特別損失		
減損損失	-	905
固定資産除却損	40	53
投資有価証券評価損	1	1
特別損失合計	42	960
税金等調整前四半期純利益	2,797	2,209
法人税、住民税及び事業税	403	477
法人税等調整額	△238	67
法人税等合計	165	545
四半期純利益	2,632	1,664
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,632	1,664

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	2,632	1,664
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	102	675
繰延ヘッジ損益	28	17
為替換算調整勘定	41	△973
退職給付に係る調整額	△443	△319
持分法適用会社に対する持分相当額	23	△70
その他の包括利益合計	△248	△669
四半期包括利益	2,384	994
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,384	994
非支配株主に係る四半期包括利益	–	–

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	第一事業部	第二事業部	シューズB U	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	33,931	17,003	7,517	58,452	—	58,452
セグメント間の内部 売上高又は振替高	702	174	—	877	△877	—
計	34,633	17,178	7,517	59,330	△877	58,452
セグメント利益又は損失 (△)	967	1,398	△582	1,783	△1,727	55

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,727百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	第一事業部	第二事業部	シューズB U	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	36,775	16,998	6,680	60,454	—	60,454
セグメント間の内部 売上高又は振替高	646	37	—	684	△684	—
計	37,422	17,036	6,680	61,139	△684	60,454
セグメント利益又は損失 (△)	2,598	1,697	△158	4,138	△1,718	2,419

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△1,718百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

お客様のニーズに応える製品・サービスを追求し幅広く事業を展開する中、これまで各事業の製品・サービスを基礎とする「シューズ事業」、「プラスチック事業」、「産業資材事業」の3つを報告セグメントとしておりました。

第1四半期連結会計期間において、『中期経営計画—FY25～FY27—』に掲げた全社戦略である①選択と集中の徹底、②新たな価値の創造、③グローバル戦略の推進の実現に向け、社会性や市場成長性、グループ・テクノロジーとの親和性の観点から重点分野を特定し、これらの分野について、事業横断的シナジーの促進とマーケット視点でのソリューション力の一層の強化を目的として組織再編を行っております。

製品の種類・性質、製造方法、販売市場等の類似性も勘案し、複数の事業を「第一事業部」、「第二事業部」に集約すると共に、単一の事業として「シューズBU（ビジネス・ユニット）」を加えた3つの報告セグメントに変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、組織再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したもののを開示しております。

各セグメントの名称、主な重点分野、事業内容及び製品は以下のとおりです。

セグメントの名称	主な重点分野	主な事業内容	主な製品
第一事業部	エレクトロニクス分野	車輌資材事業	車輌内装用資材、 一般レザー・カーボン・ラミネート
	モビリティ分野	化成品事業	フィルム
	メディカル&ヘルスケア分野	ウレタン事業	ウレタン
		工業資材事業	工業資材、衝撃吸収材等
第二事業部	コンストラクション&インフラ分野	断熱資材事業	断熱資材
	セーフティ・アクティビティ分野	建装事業	建装資材
		防災事業	防災対策商品等
シューズBU		シューズ事業	シューズ

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「第二事業部」セグメントの当社防災事業に係る資産グループについて、当初の事業計画で想定していた収益の達成に遅れが生じており、計画の達成に時間を要すると判断したことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては905百万円であります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	2,047百万円	1,997百万円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	第一事業部	第二事業部	シューズBU	
日本	22,294	16,542	7,221	46,058
米国	5,526	258	—	5,784
その他	6,110	202	295	6,609
顧客との契約から生じる収益	33,931	17,003	7,517	58,452
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	33,931	17,003	7,517	58,452

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	第一事業部	第二事業部	シューズBU	
日本	22,222	16,458	6,383	45,064
米国	7,608	323	—	7,932
その他	6,945	215	297	7,458
顧客との契約から生じる収益	36,775	16,998	6,680	60,454
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	36,775	16,998	6,680	60,454

(分解情報の区分変更)

これまで、収益の分解情報は、消費財がもつ当社のブランド力を中間財の拡販に有効活用していくために、消費財への注力は重要との観点から「消費財」、「中間財」に区分をしておりましたが、2025年5月に公表した『中期経営計画—FY25～FY27—』に掲げた3つの全社戦略の「選択と集中の徹底」において、「消費財」、「中間財」の区分にかかわらず、各事業において収益性の低いアイテム・カテゴリーを再評価するとともに、市場成長性と収益性が期待できるマーケットを特定し、選択と集中の徹底を図っております。

また、全社戦略の「新たな価値の創造」及び「グローバル戦略の推進」においては、重点分野を特定して、事業横断的シナジー効果を生み出し新たな価値を創造するとともに、日本国内のみならず、北中米エリア、東南～西アジア・欧州エリア等の重点分野で事業拡大を推進してまいります。

そのため、今後は地域別の収益が重要な経営情報と位置付け、今回の報告セグメントの区分変更とともに収益の分解情報の区分を「日本」、「米国」、「その他」に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間の収益分解情報については、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。